

AOI NEWS LETTER

<https://e-aoi.net>

2大NEWS
特別号

vol.06

ここから、
ずっと

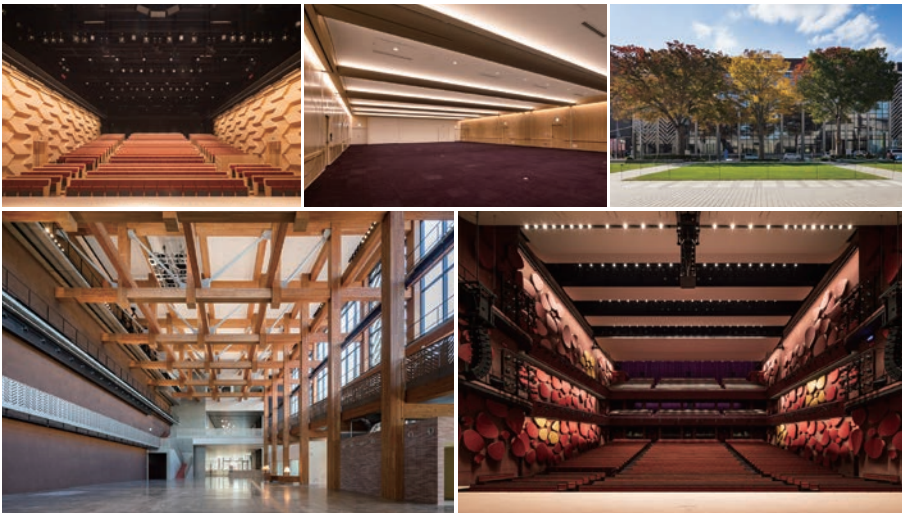


NEWS 1 | 水戸市新市民会館竣工

新たなステージとともに、水戸のまちなかが輝きを増す。

2022年10月31日に約2年半の工期を経て、水戸市新市民会館等施設建築物新築工事が竣工を迎えました。2011年の東日本大震災で被災した水戸市民会館。震災とコロナ禍という二つの災害を乗り越え、2022年11月13日には竣工式が執り行われました。移転先は水戸市泉町。水戸市民会館と水戸芸術館、そして京成百貨店、この地区の愛称もMitoriO(ミトリオ)に決まり、多様な文化と人・街をつなぐ水戸市の新たな拠点が生じました(開館は2023年7月)。水戸市民会館は、全国でもまだ珍しい鉄筋コンクリート造・鉄骨造・木造が組み合わさるハイブリッド構造。建物の中心部分の大ホールを、中・小ホール、会議室、スタジオ、そしてやぐら広場などの空間が囲う建築物です。ホール建築特有の吹抜け部分が多い施工難易度が高い工事で、移転前の京成百貨店などの建物があった場所に建築されました。矢羽根をモチーフにデザインされたアルミルーバーが印象的な外観に、内観はふんだんに使われた木の温もりで、訪れる人の目と心を和ませてくれています。また大ホール壁面の偕楽園の梅の花びらをモチーフにデザインされた音響反射板や屋上庭園などからの水戸芸術館の眺めなど、建物の随所で水戸を感じられる演出がなされています。

水戸市民会館の誕生で、日本の建築界を代表する伊東豊雄さんと磯崎新さん設計の建築物が隣接することとなったMitoriO地区。晴れた日のガラス張りの水戸市民会館に映る水戸芸術館など、新たな建築の楽しみ方も満載です。街中の移り変わりを味わいに、是非、足を運んでみてください。



©川澄・小林研二写真事務所

NEWS 2 | 葵建設工業新社長就任

- 新社長就任のご挨拶 -

それぞれの強みが活かされて、 チームになっていく

2022年7月1日から代表取締役役に就任いたしました。6月までは法学・経済学等の専門出版社で編集部・業務部・営業部に在籍し、また2012年から葵建設工業の非常勤の取締役を務めておりました。高校卒業以来の水戸での生活も含め、毎日が発見と驚きに満ち、「社長業を学びながら実践している」と感じています。常勤となってあらためて前社長(現会長である父・栗原英則)が40年にわたって担ってきた責任の重大さを感じ、身の引き締まる思いです。

「30年のお付き合い」を使命とする当社で、これからの30年に向けての一步を踏み出したばかりですが、1955年の設立以来(創業は1951年)、多くの人の力に支えられての現在であることを実感する毎日です。施工管理の業務は安全管理・品質管理・工程管理・原価管理と言われますが、これは前職でも同様だったと感じます。たとえばPR誌を編集した際、一定の内容のある記事を、適切な予算・確実なスケジュールのもと無事故で行うことが求められました(ただ建設業の場合、出版業と比べて、安全管理の部分は切実に感じます)。異業種からの転職であることを強みに、また社員一人ひとりの強みが発揮されるチームをつくっていきたいと思います。お客様の満足はもちろん、お取引先、社員、そして地域の満足を実現する企業をめざし、努力してまいります。今後ともよろしく願い申し上げます。

代表取締役 栗原 真由子



現場から。施工管理者の目線

新市民会館
施工担当者
石井貴也
インタビュー

それを形にするのが施工管理者。芸術的な大ホールに携われたことは大きな財産です。

今回、新市民会館のJV（ジョイントベンチャー）の代表を務める竹中工務店さんと一緒に仕事をさせてもらって、自分の未熟さを痛感するとともに、多くを学びました。非常に厳しい工程管理を貫き、それをどう乗り越えるか、目標に向かって逆算の目線をもちアイデアを出し合いながらスピーディーに問題解決をしていく竹中工務店さんの文化には圧倒され、知恵を集結させてものづくりに励む共創意識の高さを実感しました。地盤改良工事、構台架設工事、既存躯体地下解体工事、鉄筋工事（北工区・躯体工事全般）、コンクリート工事（後施工工区）、大ホール内装工事など、多くの工種を担当しましたが、建物の大きさ、打合せの多さ、携わる人の多さ、厳しい工程下での管理、どれをとってもこれまで自分が経験してきたレベルとは段違いで、プレッシャーも大きかったです。中でも大変苦労したのは、大ホールの仮設計画です。ホール建築ゆえ、柱や壁が何もない大空間の中、傾斜がある客席のスラブ（構造床）の上に仮設ステージを組んで、天井から吊り下がる反射板・舞台装置（仕上げ部分）などを施工するために、どのようなアプローチをすれば作業者の安全を守りながら効率的に工事を進行できるか、非常に頭を悩ませました。高所作業が非常に多い中でも、転落事故などの重大事故を起こすことなく施工管理者の責任を果たせたことに、とてもほっとしています。また、大ホールの内装工事での小叩き仕上げの壁や、梅をモチーフとしてデザインされた音響反射板は、モックアップの制作・確認の繰り返しで大変でしたが、とても面白味もあり一緒に作品を創り上げるという想いで施工計画・管理を楽しめました。

新市民会館の工事は、初めての工法・経験づくしで自分との闘いの日々でもありましたが、多くの人たちと、多様な施工方法・管理を経験できたこと、そして、これから水戸のシンボルとなる建物に携われたことは自分にとって大きな自信と誇りになりました。

水戸市新市民会館等施設建築物新築工事

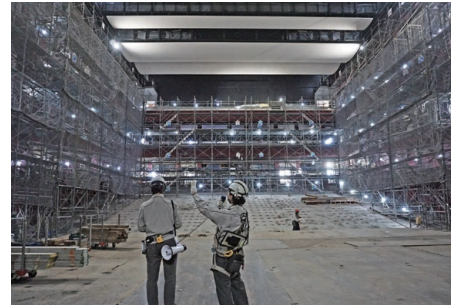
設計監理 | 伊東豊雄建築設計事務所・横須賀満夫建築設計事務所共同企業体
施工 | 竹中・株木・鈴木良・葵・関根 特定建設工事共同企業体

工期 | 2020/4/1～2022/10/31

構造/規模 | 鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造・木造 / 地下2階・地上4階

建築面積 | 6,952.37㎡ 延床面積 | 23,232.35㎡

用途 | 劇場・物品販売業を営む店舗



水戸とアオイ

水戸芸術館の中崎透さんの企画展にご協力しました！

11月より水戸芸術館で開催された水戸出身の美術家・中崎透さんの企画展『フィクション・トラベラー』（～2023年1月29日）。足場を組んで展示したい作品がある、という中崎さんのご要望で水戸芸術館からご相談を受け、当社が足場設置のアドバイザーを務めました。展示室に組まれた足場の高さを活かしたパフォーマンスが行われ、展示空間が一体となった作品に。同展は中崎さんの20年分の作品に加え、水戸にゆかりのある人たちのインタビューをもとにした作品で構成、水戸芸術館の構想や建設に関するエピソードにもふれられます。水戸の移り変わりがしみじみと思い返されるとともに、中崎さんの世界観に心がほころぶ企画展でした。



[水戸芸術館HP]



[中崎さんInstagram]



足場施工協力 | 茅根組

編集後記

今回の工事で石井は大ホール内装工事の目処がたった時点（引渡し2ヶ月前）で現場を離れることに。重責からの解放感にほっとしながらも悔しさをにじませる石井の姿が。当社から新市民会館は目に入る距離ゆえ、完成した姿を見るまでは、気になって仕方がなかったと語っています。石井から工事中の並々ならぬ努力と苦労、嬉しさ、楽しさ、驚き、そして悔しさ、辛さ、無数のエピソードがそこにあったことを聴き、改めて施工管理の仕事の奥深さをのぞかせてもらいました。悔しさも自分の成長の糧にできる石井には、今後は自分の経験をどんどん発信して、新たなAOIとともに自分の役割を果たして欲しいと感じています。

広報担当 岡本寛美

インターンシップ・新卒採用募集中！

<https://e-aoi.net>

株式会社 葵建設工業

茨城県水戸市五軒町 2-2-7 TEL | 029-225-1144



[AOI HP]



[AOI YouTube]



[AOI Instagram]

Design | TRUNK

Copyright © 2023 aoi kensetsu kougyou all rights reserved.